



2010年8月4日放送

印象に残る症例②

岡クリニック 院長 岡 留美子

精神科の治療で漢方を使用していると、患者さんは回復していくが、回復を一番促進したものは何であったのか判然としないときがあります。ある症例の治療を通して考えたこととお話しします。

症例報告

患者さんは中学2年生の13歳男子です。母と兄の3人家族です。主訴は「髪が抜ける」でした。

小学校6年生のX-2年12月に円形脱毛と急性一過性精神病様症状が出現し、X-1年2月に精神科を受診し、5ヶ月で症状が改善したためX-1年7月に治療を中断しました。

半年たったX年1月10日頃、再び髪がぬけ始め、1月末にはほぼ全頭脱毛の状態になり、X年6月に当院を初診しました。初診時には、皮膚科でセファランチンの内服が処方されていました。母の勧めで受診しましたが、ご本人がおっしゃるには、「このまま皮膚科の治療を続ければ治ると思う。来年6月の修学旅行までに治したい。ここでは特に相談することはない」ということでした。

患者さんが自分の意思で受診したのでないときには、受診してくれたことの労をねぎらい、その人がどういう人であるかを教えていただくのが基本です。そこで、彼が困っていることを伺うと、髪の毛のことを友人から指摘されて気分が滅入り、勉強する気が起きないのが悩みだといいます。もともと成績優秀であったのに、今は成績不振だそうです。

脱毛の状況を見せていただくと、眉毛、睫毛は全て脱落しており、鬢をテープで頭部に貼付して着用していました。後頭部には数箇所島状に発毛していました。いたずら盛りの同級生の中には、後ろからいきなり鬢を引っ張る子がいて、後ろを人が通るときはいつも不安でビクビクしているとおっしゃいます。

私は次のように彼に言いました。「真面目なあなたは、髪の毛のことで辛い思いをして、気持ちが落ち込み、成績も伸びないし、びくびくしなければならないのですね。漢方薬を使うと、落ち込みが楽になって、不安でビクビクした状態が減って、髪の毛がちゃんと生えてくることがありますよ」。患者さんはその言葉に興味を示し、のんでみたいとおっしゃいました。最初は特に相談することはないと考えていた彼は、対話を通して、相談してみようという考えになりました。

気鬱と考え、これを改善するために柴胡加竜骨牡蛎湯 5 g を処方いたしました。

初診から2ヶ月たったX年8月には「漢方はいさくないけど、のめば少しは生えてきたように思う。眉は毛穴が出始めた」おっしゃいました。漢方が効いているという実感を持ち始めたようです。

彼は歴史や音楽が好きで、自分でストーリー漫画を描いていて、それについての話もしてくれました。

X年9月にはつむじがでてきて、10月にはもみあげが生え、X+1年1月には睫毛が生え始め、頭部の発毛も順調で、鬢を装用するテープをやめ、生えてきた髪の毛にピンで固定するようになりました。

2月には眉毛が濃くなってきて、頭部はテープで鬢を固定していた部分以外は発毛しました。3月には右後頭部がまだらな以外は生え揃いました。4月には中学3年生に進級しました。5月15日に受診したときには「5月29日には鬢をつけずにここに来ます」と宣言し、実際そのようになさいました。

6月には楽しく修学旅行に行けました。

受診後1年たって、髪の毛が生えそろう、修学旅行にもいけたので、通院を終了するかどうかを尋ねてみました。患者さんは「漢方のんでいると調子いいし、もう少し続けたい」おっしゃいます。その後は、高校受験にむけての勉強について話し合い、勉強法の助言を求められたのでお教えし、今描いているストーリー漫画の展開についてのお話をうかがっていきました。

X+2年4月には無事志望校に進学しました。7月には次のように申し出られました。「髪の毛も生えました。そろそろ一人でやっていく時期がきたと思う。ここを卒業したい」。私は喜んでそれを受け止め、治療は終了しました。

考察

このケースの治療経過をふりかえってみましょう。処方是最初から最後まで柴胡加竜骨牡蛎湯5gでした。精神療法的かかわりは、彼が今困っていることを話してもらい、求められたときには助言を行い、彼の趣味のストーリー漫画を見せてもらい、その展開に感心を示す、そして勉強の仕方をお教えるということでした。11ヶ月で髪の毛が生えそろう、2年と1月で終結となりました。

この治療経過では何が有効に作用したのでしょうか。柴胡加竜骨牡蛎湯をのみだしてから、髪の毛が生えだしたと患者さんは実感しました。抑うつ、不安感が改善し、びくびくすることも減ってきました。脱毛が治癒したあとも「のんでいると調子がいい」とおっしゃり服用をつづけられましたので、この処方は有効であったと考えられます。

では、もし精神療法的なかわりなしでこの処方を服用していたらどうだったのでしょうか。あるいはこの処方なしで精神療法だけで治療を続けた場合、どういう経過をたどったのでしょうか。

私はおそらくどちらでも効果はあったと思います。しかし、この11ヶ月という期間で効果がでたかどうかは分からないと思います。初診時に「修学旅行までに鬘を外したい」と述べた患者さんは、希望通り、修学旅行の1週間前に望みを遂げました。私はこのプロセスをみて、人の心の持つ力の不思議を思わずにられません。

人が治癒していくためには、意識的あるいは無意識的にいろいろなリソースが活用されます。その人自身の資質、家族や友人の支え、学校など社会資源、そして医療。これらが全て合わさって、患者さんの治ろうとする思いをサポートし、治癒の方向に導くのだと思います。

この患者さんは元来真面目で勉強熱心、成績がよかったのですが、成績が伸び悩むようになり、脱毛が始まりました。想像力が豊かで音楽や歴史に興味をもち、ファンタジー系のストーリー漫画を描いていました。その作品は大学ノートで40冊に及び、高校受験に向けて成績が伸び悩む合間にもこっそりと描きすすめられていました。脱毛は、いわばその「伸び悩む状況」が体にメタファーとして現れたものと言うこともできると思います。治療の場では、「伸び悩むもの」についてのびのびと語ることが保障されていました。成績に伸び悩み、好きな漫画をこっそりとしか描けないことに悩んでいた彼は、勉強の仕方の助言が得られ、漫画についても自由に語ってよい場を得ました。彼が得たいと無意識で思っていたものが治療の場で提供され、そこに有効な漢方薬が処方され、心が自在に治癒力を発揮したのではないかと思うのです。

処方解説

柴胡加竜骨牡蛎湯は安神剤で気うつを治す処方です。「比較的体力があり、心悸亢進、不眠、いらだちなどの精神症状のあるもの」に使います。私は、この処方を次のように位置

づけています。ストレスがかかって、気分が落ち込むが、それが体の症状として現れやすい人向き」の処方であると考えます。うつ病を始めとする気分障害、不安障害、心身症など、精神科、心療内科領域で活用する機会の多い処方です。

まとめ

私たちは病気になっても治る力、すなわち治癒力を持っていますが、それが発現し、促進するためのシステムがあります。その人自身の資質、家族や友人やペット、学校や会社、地域社会など、そして医療がそのシステムを構成します。どの構成要素も大切であり、互いに影響し補完しあいます。医療の構成要素である漢方薬は、その人が無意識で望んでいたものが治療の場でメタファーとして提供され、資質を補強するときに最高の効果を発揮できるのではないかと思います。